



第3回定例市議会開催

自主防災組織の育成と市庁舎の強化を

9月10日から開催された、第3回定例市議会でのくまがい桂子市議の前半部分の質問と答弁の概要をお知らせします。(後半は次号)



1、防災の取り組みについて

(質問1)

自主防災組織の設置・育成について、昨年は二つの町内会と協議を進めているということであったが、進捗状況と今後の方針は。

(答弁1)

地域の高齢化や町内会会員数の減などで現在も協議中。防災講和や避難所運営ゲームなどを実施していく方向。

(再質問1)

全国で8割、全道で6割の市町村が自主防災組織を結成し

ている。厚谷市長の所信表明に「日常生活はもとより、災害発生時における共助の視点から『地域互助会(仮称)』の設置を目標として環境づくりに取り組む」とあったが、ぜひ、それを進めていただきたい。

(再答弁1)

自助・共助・公助のバランスが大切。地域が主体的に向き合うことをバックアップしたい。

(質問2)

災害時、市民周知のための広報手段について、昨年は非常に不十分であり、デマも流れた。どのように改善するのか。

(答弁2)

市民がより聞き取りやすくなど、車両広報の改善を考えている。

(再質問2)

PTAと議会の懇談の中で、「災害に関する重要な情報を同報メールなどで流してもらえないか」という要望があったが、実現できないか。

(再答弁2)

高齢化が高まる中、予算・人的対応が限られる中で、何ができるか今後検討していく。

(質問3)

自主避難を含めた避難所の開設について、いざという時、自主避難をできるようにしてもらいたいという要望がある。高齢者独居世帯が三分の一を占める本市として、今後どのように対処されるのか。

(再質問3)

他の地域の事例を見れば、自主防災組織ができたところ一定程度の予算付けをして、防災訓練を行政に何ができるか

(答弁3)

行政が避難勧告を出した時には指定避難所が開設される。災害時には自助が7割、共助が2割、公助が1割といわれ、地域の自主的な防災への取り組みが求められている。

(再質問3)

総体は自治体だが、今まで以上に地域の防災意識を高めるなかで、住民がそれぞれ、自助・共助について何ができるか考へるための場づくりを行政に何ができるか

難所の開設や運営の位置付けをしている。先進事例をもとに、幸福の黄色いハンカチ基金の活用も視野に入れて早急に実現していただきたい。

(質問4)

福祉避難所については、昨年は1か所のみ、今年も確保に努めたい」ということであつたが、現在の状況と今後の計画は。

(答弁4)

現在は紅葉山の養護老人ホーム紅葉園1か所のみであり、清水沢地域や若菜以北にも必要と考えている。今後関係機関と議論を進めたい。

無名碑法要 開催



全日本建設交運一般労働組合(建交労)夕張支部

8月26日、秋の気配が感じられるこの日建交労事務所敷地に隣接した末広墓地で、無名碑の法要がとり行われました。

「それぞれの歴史を背負いここに眠る」と刻まれた碑の前に、白布をかけた祭壇が用意され、夏の終わりを告げる色とりどりの供花やスイカなどの供物が供えられ、僧侶の読経のなか順に焼香が行われました。

建交労夕張支部野呂義則委員長をはじめとして組合員が続いて焼香をおこない、くまがい桂子夕張市議や筒井勇治夕張労働組合総連合議長、夕張市の関係者の方々なども碑前で手を合わせました。

今年もあらたに3名の方が過去帳に記名され合祀されました。納骨堂には組合員の他、夕張市役所からの依頼で身よりの無い方の遺骨も引き受け納骨しています。

この碑は労働運動を始め平和運動、市民活動など様々な分野で活動し、社会の発展の為に仲間と共に過ごした人々を讃えようと建立され、これまでに354名の方を過去帳に記録し奉納しました。

碑前でのお参りの後、建交労事務所に移り安部秀一書記長の司会で、懇親会が行われました。

参会者一同、供物のスイカや手作りの五目御飯をいただきながら、かつて一緒に闘った思い出話で人を偲びました。

(質問5)

高齢化が進む地域の防災対策について、前市長は「自助・共助がとても重要であり、隣近所や町内会と連携を深め、地域みんなで防災意識を高めることが重要」と答弁されたが、現在の状況と今後の計画は。

(答弁5)

住民参画型の水防訓練や住民避難訓練などがすでに始まっている。地域を変えて毎年実施し、訓練を通して地域の連携、防災意識を高める機会にと考えている。

(再質問5)

市民の防災意識を高めるために、住民との懇談会などで、市長自らが地域の互助会組織や自主防災組織の必要性について説明することが重要ではないか。

(再答弁5)

自主防災組織については市長から説明の機会について今後検討したい。地域互助会については、市民理解のためにその

ような機会が必要と考えている。

(質問6)

災害対策本部となる庁舎が耐震化されていないことについて、その後どのような検討がされているか。

(答弁6)

昭和53年に完成し、41年が経過している。平成25年の耐震診断で震度6強〜7で、倒壊・崩壊の可能性が高いとの結果。耐震化と建て替えの両面から検討中だが、膨大な事業費が必要となるため、財政再生計画の進捗状況を見極めながら、方向性を決めていきたい。

(意見)

現在、地球規模での気象の激変や、火山活動の活発化、地殻変動などで、様々な災害への準備が必要。市民生活を守る。皆となる対策本部であることから、一日も早く市民が安心できるよう強化していただきたい。

(後半の質問は次号に掲載します)



くずさんの 夕張歴史散歩(120)

韓国は約束を守らない国なのか(その2)

問題の根本は、植民地支配の不当性を認めてないことにある

請求権協定の「前提」とした日韓基本条約では、1910年の「韓国併合」問題で済ませてあまいまいな「合意」がなされました。日本側は、一貫して「韓国併合」がもたらした植民地支配の不当性を認めていません。

冷戦の激化による米国の意向もあり、植民地支配という一番根っこの部分をあまいまいにしてしまったのです。

問題解決には、国としてまず歴史的事実を事実と認め、誤りを素直に謝罪することが基本です。逆に安倍政権の勝手な解釈での韓国批判と制裁や、一部マスコミも同調しての一斉韓国叩きは、問題をこじらすだけです。

殴ったものはその事を忘れるが、

殴られたものは痛さを忘れない

この「歴史散歩」でも東学農民運動への残酷な皆殺し作戦・王宮占領・国王拉致・閔妃暗殺事件など、日本政府と軍部が犯した、筆にするのもおぞましい非道の数々を指摘しました。さらにこれに韓国併合や創氏改名・皇民化政策が加わるのです。

殴ったのは日本側なのです。殴られた本人が納得しなければ解決はないのです。

自分が韓国の立場だったら、どうだろう

微用工問題は、夕張炭鉱での何万人という朝鮮労働者の実態を思い出すだけで充分でしょう。想像力をはたらかせて、朝鮮人民に加えられた非人道的な人権侵害を、もし日本人が受けたらと考えると見たら、どうだろうか。

微用工や慰安婦問題は、人権問題であり人間の尊厳にかかわる問題なのです。

※ 前号の「歴史散歩」の番号を119に訂正



紙智子

紙智子「国会かけある記」
参議院議員

安倍政権一日も早く終わらせよう

「司法がまた、善良な漁民と国民に対して一筋の希望を与えてくれたと思っています」。

「よみがえれ！有明訴訟」原告団の発言です。

ムダな公共事業である長崎県の諫早湾干拓事業。「ギロチン」と呼ばれた潮受け堤防のテレビ画像がよみがえります。堤防が出来て漁業被害に苦しみ漁業者は開門を求め裁判を起し、2010年に福岡高裁は開門を命じる判決を出しました。当時、民主党政権が受け入れたため判決は確定しました。

ところが、政権に復帰した安倍政権は、堤防の開門義務を放棄すると表明し、福岡高裁は2010年の確定判決を無力化する不当判決を出したのです。

最高裁は13日、「開門しない」とした福岡高裁判決を破棄し差し戻しを命じました。

確定判決を無力化した判決を「司法による司法の否定だ」と激しく非難した馬奈木団長も、「かろうじて司法の信頼が保たれた」と述べました。一筋の希望が見えた瞬間です。

開門したくない安倍政権は、最高裁まで争いたいと言いました。最高裁で国の主張が認められなかった以上、開門判決を完全履行すべきです。

話は変わって、北海道の諸団体を訪問し、課題と要求を聞きながら意見交換しました。目の前に迫った消費税増税への怒り、社会保障切り捨ての深刻な実態、大学入試のための英語検定を導入するから予約金3千円を払えと言う文科省、高校生に怒りと不安が広がっています。とんでもない安倍政権は一日も早く終わらせましょう。